

今日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
また、このような場を設けてくださった関係者の皆様に感謝いたします。
この室蘭工業大学学術資源アーカイブによって、
本学における研究・教育活動はさらに発展していくと思いますので、
先生方にご検討いただきたいと思います。

こんなことありませんか・・・？

→自分の論文をもっと読んでもらいたい・・・

>せっかくの研究成果なんだからもっと多くの人に知って欲しいですね

→論文の保存・管理が大変だ・・・

>確かに自分でやるのは大変ですね

→それが簡単にできれば・・・

→室蘭工業大学学術資源アーカイブがあれば・・・

より多くの人に論文を見てもらえる

→保存・管理が手間いらず

→悩みが解決！

→室蘭工業大学学術資源アーカイブ（仮称）とは

>室蘭工業大学学術資源アーカイブとは何かを簡単に説明しておきます。

本学の研究成果を電子的な形で保存し、公開することができる保管庫

※一般には機関リポジトリと呼ばれるもの

>本学の研究成果を見せられるショーケース・ショーウィンドウのようなものです。

>以降「本学アーカイブ」として説明します

インターネットに繋がる環境があれば、誰でもアクセスすることが可能

アクセスは無料

検索エンジンから手軽に論文本文へのアクセスが可能

→誰でも無料で簡単に研究成果にアクセスできる

>かいつまんで言えば、誰でも無料で簡単に本学の学術資源を見ることができるようになります

>ちなみに同じような取組みが全国的になされており、

>道内では北海道大学・帯広畜産大学・旭川医科大学・北見工業大学

>で既に公開されています

>（小樽商科大学・はこだて未来大学でも公開準備中）

→本学アーカイブのねらい

研究成果を

→残す

研究成果を確実に保存する

>教員が退職しても本学での研究成果として残せます

>電子的に保存することで劣化することなく、管理もしやすい。場所もとりません。

そして見せる

研究成果を国内外問わず、様々な人に公開する

→優れた論文は引用数も増えるため、研究成果は広範囲に知られる

→研究成果の有効活用

- > 電子ジャーナルがあるじゃないか。という意見もありますが、
- > 電子ジャーナルは有料である上、読むことができる人が限られます。
- > (中小企業や一般に人はなかなか読む機会が少ないです)
- > 簡単にアクセスできて無料で論文が読めるなら、今より読まれやすくなるでしょう
- > ※海外の事例で、物理学系の同じ論文をインターネットで無料でアクセスできる状態に
- > しておいた場合と、有料でアクセスさせる状態にした場合とでは、
- > 引用数が5.6倍の差があったとの研究もある。(byハーナッド氏)

> 研究成果が今より読まれやすくなることで、現在の研究を有効的に活用できる。

→研究成果を公開するには・・・

公開したい論文があれば、図書館に提供してください

- > あくまで性質はセルフアーカイブなので先生が載せたいものを載せる形となります
- > (図書館がその手伝いをします)
- > 原則、査読済みの論文を収録する予定ですが、
- > それ以外のものについても対応できます。
- > 特許・プライバシーに関わるなど公開したくないものについては
- > 公開する必要はありません

論文の共著者がいた場合は、全員に同意を得てください

> 登録のため複写してもよいか、公開してもよいか

その他の作業は図書館側が行ないます。

- ・著作権者（出版社・学会協会等）との交渉
- ・論文のPDF化
- ・データベースへの登録
- 等々・・・

> 著作権について・・・

> 国内の出版社・学会協会はリポジトリについてまだ対応しきれていないことが多い。

> そのため個別の契約内容により交渉が必要なことがある。

> （海外の出版社の90%はリポジトリでの公開を認めている。）

→今後の予定

2007年8月 試験公開開始

現在 各学科等への説明会・コンテンツ収集

2008年3月 正式公開予定

ご不明な点がある場合、さらに詳しく機関リポジトリについて

知りたい場合は対応いたします。

また、個別に訪問しての説明もいたします。

お問合せ先

附属図書館 学術情報係

(内) 5191